

自分を知り、将来を考えるワークに『じぶん未来BOOK』を活用

教員の生徒理解にも役立つ
2学期の面談の話題に

五稜郭に近い函館館中心部に建つ函館中部高校は、創立115年を迎えた伝統校。3年間の進路指導は1学年で将来何をしたいのかを考え、2学年では学部学科調べや大学の出前授業、オープンキャンパスへの参加を通して志望を絞り、3学年では目標を決めて志望校合格を目指すという流れだ。

1学年では、人間関係などのベースをつくる1学期から進路に向かう2学期に切り替わる夏休みに、仕事について調べ、自己探求を行って未来像を展望する宿題を出している(左図)。

今年、進路指導部の今田祐嗣先生は、身近な職業人へのインタビュー(Step1)の次に『じぶん未来BOOK』から興味をもった人を2人選び、選んだ理由を書くワーク(Step2)を追加し、5ステップのワークを作った。

昨年まで10月11月に行っていた職場訪問をNPOと連携した起業家教育に切り替えたため、職業に触れる機会を増やす目的もあったそうだ。「仕事について知るだけでなく、共感できる生き方に出会えるのがこの本のいいところ」(今田先生)と話す。

ワークシートに書かれた職業人への共感ポイントや興味をもった理由を読むことで、担任の生徒理解が深まり、面談の際にも役立つという思わぬメリットもあったそう。

実は、生徒にとって一番難しいのがその次のステップである「自分の興味や得意なこと、長所を挙げる」というワーク(Step3)。「キャリア教育＝職業教育というイメージをもつ人も多いですが、生き方を考える、字ぶのが本来の姿。客観的に自分を見ながら何になりたいのかを考える時に、職業人との出会いがヒントになります」と進路指導部長の大内英紀先生。

最後のステップは「そのために今やるべきこと」を考えること。「今やりたいことはいつかわ変わるもの。進路を切り拓く筋道の立て方を一度学ぶことが大切です。ストーリーを立てることができ、語れることは面接にも、小論文にも、将来にも生きると信じています」(大内先生)。

スクールデータ

生徒数/714人(男子378人・女子336人)
普通科18学級
進路状況(2009年度)/大学・短大進学68.9%、専各進学1.7%、就職0.9%、その他25.5%
北海道函館市時任町11-3
電話/0138-52-0303 URL/http://www.kanchu-h.ed.jp/

リクルートサービスを活用した指導実践例

「2010年 未来の旅～自分探しに出かけよう」
ワークシートのステップ

- Step1 「はたらく」とは?**
身近な職業人にインタビュー。「どうしたらその仕事につけるか」「つたいきさつ」「苦勞」「喜び」「その仕事に必要な資質」を聞き、自分なりの「はたらく」ことの目的や意義を考える
- Step2 いろいろな「仕事」を知ろう**
『じぶん未来BOOK』から興味を持てる「仕事」や、共感できる生き方をしている「職業人」を2人探し、なぜそう思ったのかを記入
- Step3 自己理解を深めよう**
興味をもっていること、長所や得意なことを最低10挙げる
- Step4 自分の未来を想像しよう**
Step1～3をふまえて、5年後、15年後に「どこで」「何をして」いるか、やってみたいことなどを具体的に書く
- Step5 未来は、もう、はじまっている**
Step4の理想の未来を考え、今、伸ばしたいもの、足りないもの、何をしなければならぬのかを考え、今後の高校生活で取り組むこと、頑張ること、3つを宣言する



進路指導部長 大内英紀先生(左)
進路指導部 今田祐嗣先生(右)
自分で納得して目標を決めてほしい。そこまで導くのが教師の仕事だと思っています。
生徒にはガツガツしてほしい。可能性は無限、苦勞の先にはいい結果が待っていると伝えたいです。